

■檀一雄 小説家。軍国主義時代に登場、〈敗戦〉直後に死去した妻「リツ子」、情事の顛末「火宅の人」を描いて没した。

だんかずお

明治天皇没・1912＝ 山梨県都留の生れ。本籍は福岡県沖端（現柳川市）で隣の北原（白秋）家と並び称される旧家。

少年期に、父の転任で福岡、弘前、足利と各地を転々とする。

大暴落・・・1920＝ 8歳：実家に戻るなどしていた母が、

原敬首相暗殺1921＝ 9歳：

水平社結成・1922＝10歳：4人の子供を残して、若い学生と出奔。この傷心が文学へと志向させた。

護憲三派圧勝1924＝12歳：父母が離婚。 足利中学校に入学。在学中、校友会誌に小論を発表。

共産党事件・1928＝16歳： 福岡高等学校文科に入学。寮の同級生と同人誌を創刊して、詩や小説を発表。

海軍軍縮条約1930＝18歳：社研の関係で1年間の停学処分。水道工夫のアルバイトや山寺に籠るなどして、読書に耽る。

満州事変・・・1931＝19歳：復学後、 校友会誌に小説を発表して賞金を受ける。

五一五事件・1932＝20歳：東京帝大の経済学部に入学。

国際連盟脱退1933＝21歳： 〔新人〕に「此家の性格」を発表、これを機縁に、尾崎一雄、太宰治らと知り、また佐藤春夫の門弟となる。

帝人疑獄事件1934＝22歳： 古谷綱武らと〔鷗〕、太宰治らと〔青い花〕を創刊。坂口安吾を識る。

芥川直木賞始1935＝23歳：東京帝大を卒業。 保田与重郎らの日本浪漫派に合流、「花筐」「衰運」「夕張胡亭塾景観」を発表。

二二六事件・1936＝24歳： ＊「夕張胡亭塾景観」が第2回芥川賞候補となる。〔文芸春秋〕に「花筐」を発表。

日中戦争始・1937＝25歳：召集令を受け、久留米の聯隊に入る。 〔花筐〕を刊行。

第二次大戦始1939＝27歳：第一詩集「虚空象嵌」刊行。

大政翼賛会・1940＝28歳：召集解除。その後、満州放浪。

日米開戦・・・1941＝29歳：一旦帰国して、高橋律子と見合結婚。再び渡満して「魔笛」を執筆。

・・・1942＝30歳：帰国。

創価学会検挙1943＝31歳：長男太郎が誕生。

年金+総武装 1944＝32歳：陸軍報道班として中国に渡り、各地を旅する。 〔天明〕で野間文芸奨励賞を受賞。

敗戦・・・1945＝33歳：帰国。

新憲法公布・1946＝34歳：妻律子が腸結核で死去。山田ヨソ子と再婚。

新憲法施行・1947＝35歳： 劇団を創立して座長になり、入江杏子と初めて会う。「終りの火」を脱稿、川端康成に託す。

極東裁判決 1948＝36歳：「終りの火」を発表。これを転機に再び、執筆活動に打ち込む。この年、太宰治が入水、衝撃を受け、

三大事件・・・1949＝37歳： 〔小説太宰治〕を連載。

朝鮮戦争始・1950＝38歳：次男次郎が誕生。 自己の従軍体験と亡妻遺児との生活体験を描いた「リツ子・その愛」「リツ子・その死」を刊行して、文壇に復帰。

独立回復・・・1951＝39歳： ＊「長恨歌」「真説石川五右衛門」で直木賞を受賞。その後、坂口安吾と行動を共にする。

TV放送始・・・1953＝41歳：三男小弥太誕生。

自衛隊発足・1954＝42歳：長女ふみ誕生。

55年体制始・1955＝43歳：坂口安吾が急逝。 〔夕日と拳銃〕を連載。後、「微笑」に入る「誕生」を発表。

国連加盟・・・1956＝44歳：次女さと誕生。 鳶温泉で入江杏子と事を起し、帰京後、同棲。

なべ底不況・1957＝45歳：

この間、杏子と共に、住居を転々とし、中国や欧米を歴遊する。

安保闘争・・・1960＝48歳： 入江杏子とけんか別れし、柳川に飛んで執筆。

タイタイ病始・1961＝49歳：「新撰現代日本文学全集」の一卷として「檀一雄集」刊行。後、 〔火宅の人〕に入る「微笑」を発表。

TV宇宙中継始1963＝51歳： ＊女優恵子（入江杏子）との情事のでんまつを描いた「火宅の人」八篇を発表。

東京リベンジャ 1964＝52歳：次男が死去。

いざなぎ景気1966＝54歳： 〔火宅の人〕の連作「有頂天」を発表。

震ヶ関バトル・1968＝56歳：同人誌〔ポリタイア〕を創刊、編集長として、詩を次々発表。

全共闘バトル・1969＝57歳： 〔火宅の人〕の連作「黄なる涙」を発表。

大阪万博・・・1970＝58歳：ポルトガルに渡る。

ドルショック・・・1971＝59歳： 〔きぬぎぬ・骨〕を脱稿。以後、執筆が中絶するが、

日中国交回復1972＝60歳：帰国。

石油ショック1973＝61歳：

クアランゴール事件1975＝63歳： ＊肺腫瘍に倒れて入院すると、病床での口述筆記により、「火宅の人」を完成させて、

田中角栄逮捕1976＝64歳： 没した。